

【事例 2】 飼料用米利用事例

「豚のエサからソーセージまで ～自給へのこだわり～」

菖蒲谷牧場（岐阜県） 代表

山川忠一郎 氏



豚のエサからソーセイジまで
~自給へのこだわり~

葛蒲谷牧場

代表 山川 忠一郎

揖斐川町の概略

○町のキャッチフレーズ

「自然と歴史が育む
ふれあいと活力のある
健康文化都市」

○町の人口

23, 967人

(8, 038世帯)

2012年2月1日現在

菖蒲谷牧場の紹介

労働力 本人、父、母、パート3名

養豚部門 繁殖用豚 約70頭
肥育豚 年間出荷頭数 約1200頭

加工・直売 豚肉の直接販売
ハム・ソーセージ加工、加工体験
2～3頭／週を直売・加工で販売

耕種部門 H18年～ 飼料用稲を栽培
H23年 作付面積 12ha

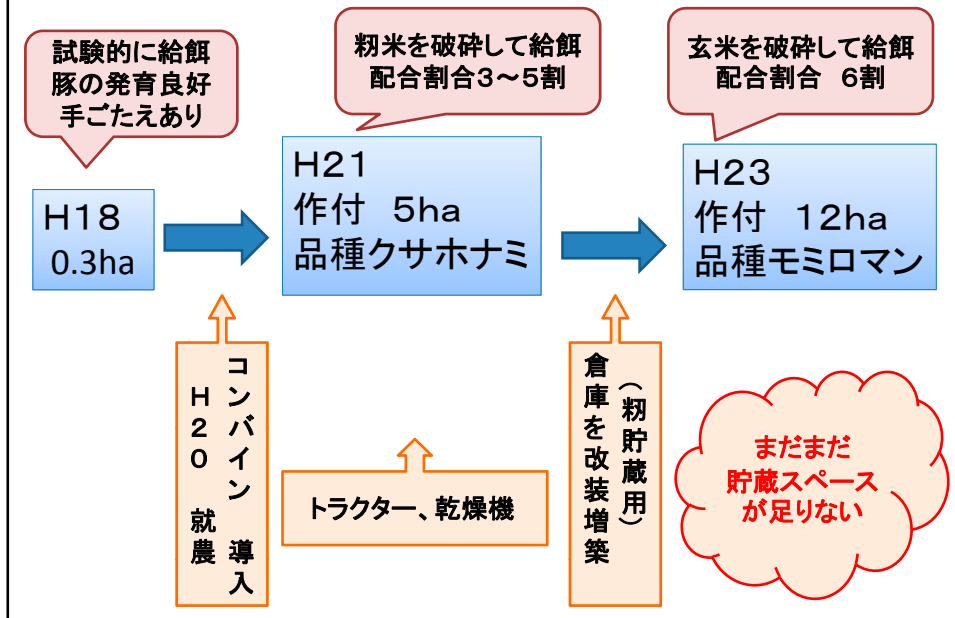
経営の特徴

生産から加工・販売まで自給自営
(6次産業の実践)

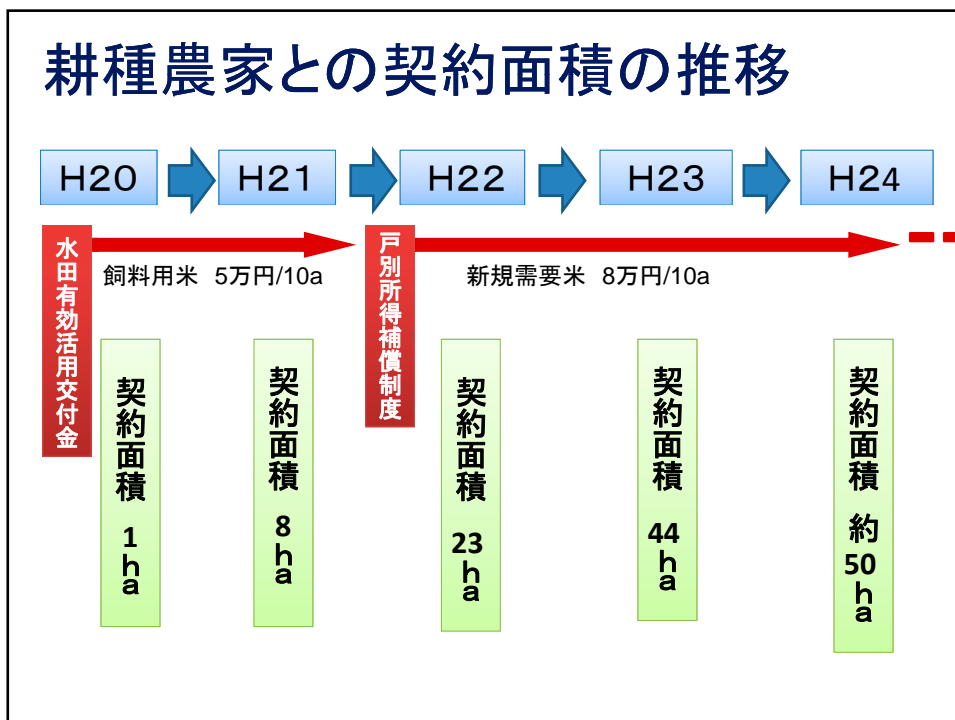
飼料米生産(1次) → 養豚(1次) →
加工品製造(2次) → 販売(3次)

- ・餌にヨモギやビタミンEを添加
「飛騨・美濃けんどん」として出荷
- ・飼料にこだわり、飼料米を餌として給与
- ・出荷豚の1～2割を本人引きし、加工・販売

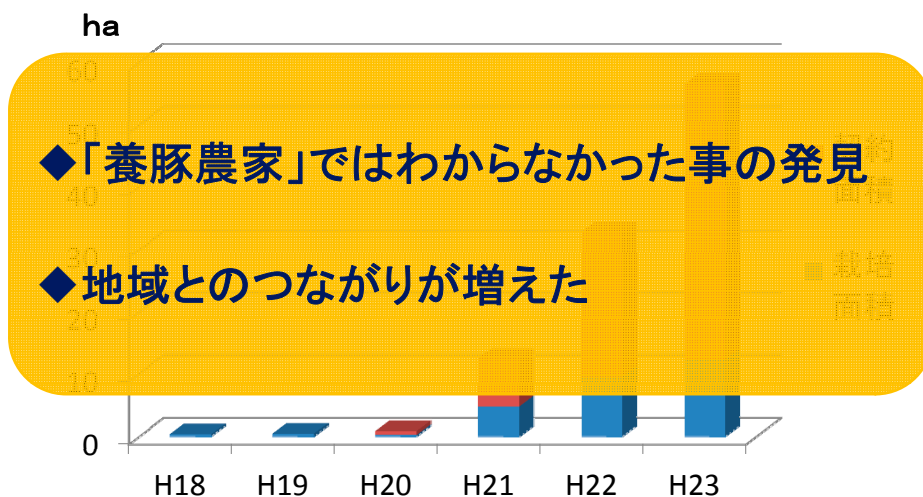
飼料米の作付け(自家作付け分)



耕種農家との契約面積の推移



飼料米を通して地域との関わり



飼料用稲の栽培

専用品種(モミロマン)の作付け

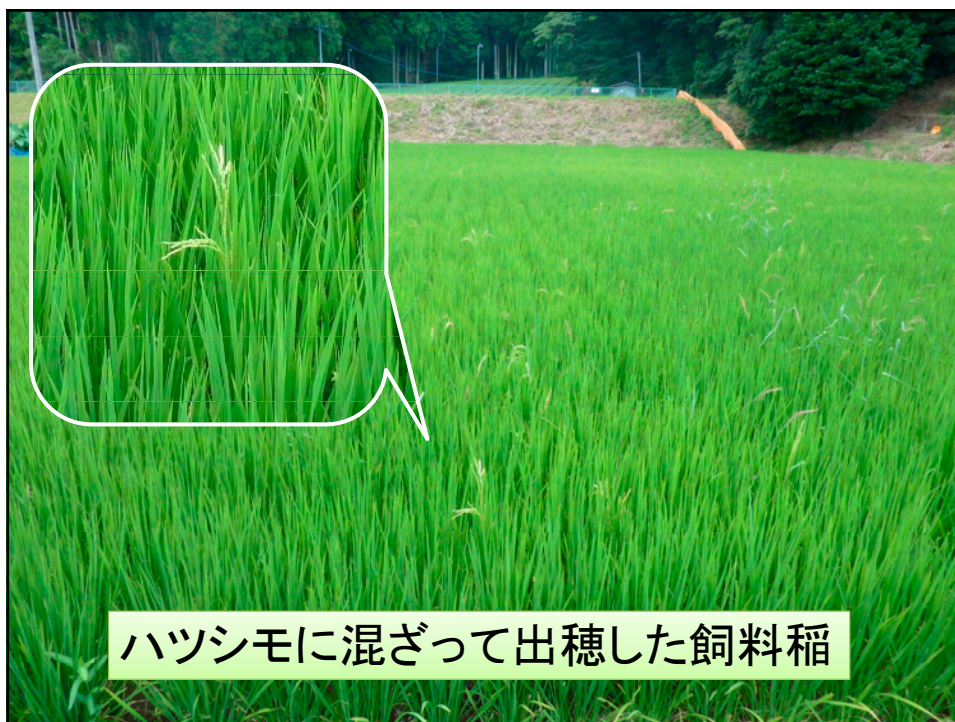
メリット

- ・病害に強く、減農薬栽培が可能
- ・多収性、脱粒性難
- ・粉碎しやすい

デメリット

- ・籾摺りがしにくい
- ・こぼれた籾が次年度以降に出芽





➤ 期間借地などの場合、食用品種を作付け
（食用米とは、収穫時期を遅らせて区別）

➤ 専用品種「モミロマン」については
選択性の除草剤で対応

（除草剤成分（ベンゾビシクロン、メソトリオン、テフリルトリオン）
が一部専用品種に感受性がある）



糞尿を固液分離し、ばっき処理して液肥として利用







飼料米給与が肉質に与える影響

○豚の発育が促進され、
脂部分がきれいな
「白色」になる。

○脂肪の融点が低くなる。

(オレイン酸などの不飽和脂肪酸の
割合が多くなる)

※県畜産研究所養豚研究部試験研究結果より



加工・販売について

◇ハム、ソーセージ、焼豚などを製造

◇JA直売所、地元朝市、各種イベントでの販売、移動販売車での注文販売



PR活動などの取組

- ・ソーセージ作り教室
「飼料～豚飼育～加工」
『目に見える生産』をPR



- ・食農教育体験

大和小学校児童を対象に、飼料米刈取、エサ加工、ソーセージ作り、試食までを体験。

→ 子ども達に地産地消の良さを体験を通して理解してもらうために続けていきたい





課題と将来展望

- ◇ 身の丈に合った経営
- ◇ 飼料米・養豚・加工・販売のバランス
- ◇ 地産地消 消費者と顔の見える関係
- ◇ 地域密着型の養豚経営



